第 1 学年 ＊ 組　　国 語 科 学 習 指 導 案
令和 元 年　　月　　日（金）第　　校時　　１－＊教室　　指導者　　＊＊　＊＊

育成する国語の能力	文章の展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図をとらえたりすること。		
単元名	羅生門を読み，作品の展開を確かめ，書き手の意図をとらえよう。		
単元目標	○作品の言葉に注目し，情景や心情を読み取ろうとしている。（関心・意欲・態度） ○下人の論理や，情景や心情の推移など，文章の筋道を的確にとらえることができる。（読む能力） ○文や文章の組立て，語句の意味などを理解し，語彙を豊かにすることができる。（知識・理解）（〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（１）のイの(イ)）		
単元の評価規準	**関心・意欲・態度**	**読む能力**	**知識・理解**
	作品の言葉に注目し，情景や心情を読み取ろうとしている。	下人の論理や，情景や心情の推移など，文章の筋道を的確にとらえている。	作品内の文や文章の組立て，語句の意味などを理解し，語彙を豊かにしている。
取り上げる言語活動	作品の展開を確かめ，内容や表現を理解するとともに，書き手の意図を考え，グループで交流する。		
題材（教材）	羅生門		
授業改善の視点	生徒が自分自身で作品を読み進められるように，内容を理解するためのワークシートを用いて，作品を読解させる。そして，作品の最後の部分の改稿の問題を扱い，書き手がどのような意図で作品を書いているのか考えさせる。どうして改稿されたかを考えることで，書き手の思考をたどることができ，小説の内容を読み取る力を身につけさせることができる。		
単元（教材）について	(1)教材観：本教材は，登場人物の心情や，情景の推移が細かく描写されているため，文章の展開がとらえやすい。また，小説の最後の部分の改稿の問題を扱うことで，書き手の意図をとらえることができる。難しい言葉も多いため，生徒の語彙を豊かにすることも可能である。 (2)生徒観：活動に積極的に取り組む生徒が多く，グループ活動も活発に行うことができる。小説に関しては，本文を読み，内容を部分的に理解することができる。一方で，文章全体の情景や心情の推移，筋道をとらえることに課題がある。小説の内容を表現に着目して的確に読み取ることができない生徒が多い。 (3)指導観：ワークシートを用いて，下人の心情の変化に注目させながら，作品の内容や展開をとらえさせる。文章の筋道を的確にとらえた後，最後の部分の改稿の問題を考えさせ，交流をとおして書き手の意図をとらえさせる。		

指導計画（学習計画）（全８時間）	主な学習活動	主な評価
	１　作者について学習する。（１時間）	・作者に興味を持ち，作品を丁寧に読もうとしている。（関心・意欲・態度）
	２「羅生門」を読解する。（６時間） ・作品を４つの段落に分け，ワークシートを用いながら段落ごとに内容を理解する。 ・下人の心情の変化に注目しながら，作品の展開をとらえる。	・下人の論理や，情景や心情の推移など，文章の筋道を的確にとらえている。（読む能力） ・作品内の文や文章の組立て，語句の意味などを理解し，語彙を豊かにしている。（知識・理解）
	３　作品の最後の部分が改稿されていることについて考える。（本時）	・文章の展開を確かめ，書き手の意図をとらえている。（読む能力）

本　　時　　案　（第８時）		
本時の目標	○作品の展開を確かめ，書き手の意図をとらえている。（読む能力）	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価規準・評価方法など
１【導入】３分 (1) 本時の目標及び活動を確認する。	○本時の目標と活動の流れを板書し，確認させる。	
改稿された部分に注目し，書き手の意図をとらえよう。		
２【展開】37分 (1) 前時までに学習した作品の内容を復習する。	○情景や登場人物の心情の推移に注目しながら，作品の筋道をとらえさせる。	
(2) 作品の最後の部分の改稿前後を読み比べる。	○改稿前後を読み比べて，どのように変化しているのかとらえさせる。	
(3) 作品の改稿前後でどのような表現効果の違いがあるか，グループで考える。	○改稿によって，読み手側にどのような変化があるか考えさせる。 ○グループ活動をする前に，まずは自分の意見をまとめさせ，グループにしたときに全員が意見を発言できるようにする。	○作品の展開を確かめるとともに，書き手の意図をとらえている。 （読む能力） 〈ワークシート〉
(4) グループの意見を学級全体で共有する。	○他のグループの考えを聞き，様々な考え方に触れ，自分の考えを確認させる。	【おおむね満足できる状況を実現していない（C）生徒への対応】 ・今までのワークシートを振り返り，作品の展開を再度確認させる。
３【まとめ】10分 (1) 授業を振り返り，自己評価を行う。	○授業を振り返り，150字程度で自己評価を書くことを伝える。	

『羅生門』　芥川龍之介

第一段　初め～161・3【羅生門の下】

①この小説の主人公は？　⬇　≪　　≫

・雨やみを待っていた

・

・

・

②舞台となる場所はどこ？　⬇　≪　　≫

・平安京の正門　↓　荘厳な作り

・　↓

・　↓

・日没後は誰も近寄らない

③舞台となっている時代・季節・時刻は？

・時代…

・季節…

・時刻…

⬇

下人の様子

◇雨やみを待っていた　＝　行き所がなくて途方にくれていた

四、五日前に暇を出された（　　）

都の「　　」の小さな余波

◇明日の暮らしをどうにかしよう

手段を選んでいれば　↓

手段を選ばないとすれば↓

きりぎりすの効果

「所々丹塗りの剝げた大きな円柱に、きりぎりすが一匹とまっている」（156・4）

・季節を表す　（　　）

・人気のない（　　）様子を表す　下人の（　　）を暗示している

「丹塗りの柱にとまっていたきりぎりすも、もうどこかへ行ってしまった」（160・10）

・（　　）の経過を表す

・下人が次の何らかの（　　）へ移るきっかけとなっている

第二段　161・4～164・9【羅生門楼上へ出るはしごの中段】

◎羅生門の楼の上の様子

はしごを二、三段上る

幅広いはしごの中段

誰かが火をともしている

その火をそこここと動かしている

死体が無造作に捨ててある

死がいの中にうずくまっている人間

老婆

一つの死骸の顔をのぞき込む

死骸の髪を一本ずつ抜き始める

◎一人の男（　　）の心理

（　　）のように身を縮めて上の様子をうかがっている。

楼の上は（　　）ばかりだと高をくくっていた。

雨の夜に、羅生門の上で火をともしているからには（　　）ではない。

（　　）のように足音を盗んで一番上の段まで這うように上りつめた。

（　恐る恐る　）楼の内をのぞく。

老婆を見て

ある強い感情がわいてきた。

＝

「頭身の毛も太る」

（　　）が少しずつ消えていった。

老婆に対する激しい（　　）

あらゆる（　　）に対する反感

（　　）心が勢いよく燃えだした。

自分が（　　）になる気でいたこと

なぞはとうに忘れている。

第三段　164・10～169・4【羅生門の楼上】

1　下人が盗人になる勇気を獲得するまでの心の動き

あらゆる悪に対する反感・憎悪

（老婆が死体から髪の毛を抜く姿を見て）

老婆をねじ倒すと

老婆の生死を支配　→　（　　）の心を冷ます

その結果

安らかな（　　と　　）

老婆を問い詰めると

老婆の答えの平凡さに（　　）

と同時に

前の（　　）が冷ややかな侮蔑といっしょに心の中に入ってきた

老婆の言い訳を（　　）と聞くと

ある（　　）が生まれてきた

この男に欠けていた（　　）

老婆を捕らえたときの（　　）と、反対な方向に動く（　　）

（　　）になる勇気

2　老婆を動物にたとえている部分を本文中から抜き出してみよう。

老婆は（　　）のようであり、（　　）のような腕を持ち、
（　　）のような鋭い目で、（　　）の鳴くような、
（　　）のつぶやくような声を出す。

特徴＝鳥獣の類の比喩を多用

効果＝老婆の（　　）や、（　　）の対象となる雰囲気を強調

3

老婆の言い訳の論理を本文に沿って考えよう。

① 自分の行為（死人の髪の毛を抜くこと）は（　　こと）と認めている。
しかし(じゃが)
② ここの死人たちも（　　こと）をしてきた。この女もそうだ。そうしなければ（　　）をしたのだからしかたのないことで、悪いことではない。
③ だから、自分も（　　）ために、しかたなくしているのだから（　　こと）ではない。したがって、この女は自分を大目に見て（許して）くれるだろう。

自分が相手の「悪」を許せば、相手も自分の「悪」を許してくれる。
矛盾→死んだ女が許してくれるかどうかわからない。

考え方的な

4

下人が盗人になる勇気を得た理由

① 老婆の論理を確認する。（生きるために仕方がなくする「悪」は許される）
② 「では、おれが引剝(ひは)ぎをしようと恨むまいな」
下人が老婆を許す→（　　）も（　　）を許す。
★ 下人は（　　）の論理をそのまま当てはめている。
★ 老婆は、自分の論理によって、加害者から（　　）になる。
★ 下人は、老婆の論理によって盗人になる決意をする。

5

「にきび」の描写について

・右の頬にできた、大きなにきびを気にしながら、ぼんやり、雨の降るのを眺めていた。（158・4）
・短いひげの中に、赤くうみを持ったにきびのある頬である。（161・6）
・右の手では、赤くほおにうみを持った大きなにきびを気にしながら聞いていたのである。（168・2）
・不意に右の手をにきびから離して、（168・12）

【共通する心理】
（　　）ためには盗人になるしかと思いながら、積極的に（　　）する勇気がない。
（　　）になる勇気を獲得。

象徴…下人の（　　や　　）
意味…（　　と　　）の境目

第四段　169・5～終わり【羅生門の外へ】

老婆が見た外の様子

↓

（　　）たる夜

＝

（　　）の世界

「下人の行方は、誰も知らない。」という終わり方について

＝

オープンエンド（＝終わりが決められていない）

下人のその後を（　　）するのは読者の自由

様々な可能性・広がりを持たせる

下人のその後

その後、下人はどうなったと思われるか、想像してみよう。

下人の人物像

下人の人物像をまとめてみよう。

年　組　　番　名前

あらすじをまとめよう

ある晩秋の（　　）時、荒廃した（　　）の下で雨やみを待つ一人の（　　）がいた。主から（　　）を出され、明日の暮らしも立たない下人は、生きるためには（　　）になるほかないということを肯定する（　　）が出せずにいた。寝場所を求めて門を上ろうとしたところ、楼上で死骸から髪の毛を抜き取る一人の（　　）を見つける。（　　）に対する正義感から老婆を取り押さえた下人は、老婆の口から、生きるための悪、悪に対する（　　）は許されるという弁明を聞き、ある勇気が生まれる。（　　）をするか（　　）になるかの迷いが消えた下人は、（　　）の衣服をはぎ取ると、夜の闇へと走り去った。

「羅生門」の最後の部分について考えてみよう。

改稿とは…

書き手（羅生門の場合は＿＿＿＿＿＿＿＿）が、原稿を書き改めること。

改稿前…「下人は、既に、雨を冒して、京都の町へ強盗を働きに急ぎつつあった。」

←

改稿後…「下人の行方は、誰も知らない。」（教科書に載っている方）

○書かれていることにどのような違いがあるかまとめよう。

○改稿前後で、読んだときにどのような印象の違いがあるかまとめよう。